南部町国際交流協会　会報　　かわら版　特別号 No.7

善隣友好

南部町国際交流協会創立30周年記念号

2019年2月22日　韓国・ハンリム大学訪問の記念写真

韓国・ハンリム大学日本学科を2019年２月22日、26人の町民有志が訪問しました。1996年2月5日に第１回ホームステイ事業で23人の大学生が来町してから23年後。その間も、南部町国際交流協会は、大学との相互理解を大切にして、民間交流を続けてきました。

創立30周年を迎えた今後も、大学との相互交流を南部町国際交流協会は続けます。

南部町国際交流協会30周年によせて

当協会は1994年(平成６)に創立され、今年で30周年を迎えることが出来ました。今日までご協力いただいた会員の皆様や関係者の皆様に、深く感謝申し上げます。

昨年末には、記念行事としてこれまで、ホストファミリーとしてご協力いただいた皆様に呼びかけ、茶話会を開催し貴重なご意見をいただきながら、和やかなうちにも有意義な会を開催する事が出来ました。

当協会の主な事業は、韓国ハンリム大学とのホームステイ事業や、大学訪問、国内研修等で、ホームステイ事業は、コロナ禍により中止を余儀なくされる、2019年７月までに218名の学生が町内のご家庭で、一週間程度滞在し交流を行なってきました。大学側も継続を希望されている事から、再開を目指し協議を行っています。町内には現在約100名の外国人が居住されていて、国際化が進行しています。今後共、当協会が行います事業へのご協力をお願い申し上げます。

南部町国際交流協会会長　塚田　勝美

南部町国際交流協会発足30周年、誠におめでとうございます

随分と昔のことになってしまいましたが、私もホストファミリーとしての学生の受入れ、韓国ハンリム大学への訪問など、協会の活動に携わらせていただきました。異なる文化や価値観を理解し、互いを尊重することの大切さを学ばせていただいたところですが、30年という長い歴史の中で、多くの会員に関わっていただくことで、国際交流への理解が南部町全体に浸透していることを大変うれしく思います。

さて、南部町には現在人口の１％に当たる約100名の外国籍の方が住んでいらっしゃいます。急速に進む人口減少社会。南部町でも労働人口の減少から外国籍の方はさら増えていくことが予想されます。南部町国際交流協会のこれまでの草の根交流活動を礎に、さらに進化させられることを期待いたします。その上で皆様のお力添えもいただきながら、南部町にお住いの外国籍の方が一町民として活躍できる、多文化共生社会の実現に向けて一層力を注いでまいる所存です。

最後になりますが、南部町国際交流協会が次の10年に向けて、さらに発展していかれますことを祈念しまして、お祝いの言葉とさせていただきます。

南部町町長　陶山　清孝

1996年2月5日
第1回ホームステイ事業で23人の大学生が来町しました。

陶山町長　　塚田会長
2019年2月22日　ハンリム大学を訪問しました。

30周年記念の会を開催して

昨年12月に「30周年記念の会」を開催しました。会員の皆さん、ホームステイをされた皆さん、役員の23人が参加しました。第1回ハンリム大学生ホームステイのビデオを見ながら、手作りケーキとお茶で30年をふり返りました。話題はホームステイのことでした。

日本学科でない学生を泊めたら日本語が話せず、英語や身振り手振りでコミュニケーションをとった。朝食にパンを出すとそんな習慣はないと手をつけなかったが、お好み焼きやたこ焼きを作って出したら喜ばれた。特別なごちそうをしなくても、日本の習慣を学びに来ているので普段の食事でいいとの声もありました。

ホストファミリーの皆さんの中には、学生を何人も泊めておられ、今でも連絡を取り合ったり、訪ねてきたりで交流を続けておられる方も多くあります。学生たちも第２のふるさととして家族のように思い、この交流を大事にしていることを、皆さんが学生を家族の一員として、温かく受け入れ楽しそうに話された思い出から感じました。このホームステイ事業は南部町国際交流協会の大きな柱です。今後も末永く続いていくことを願っています。

記　早田　秀子

ビデオ鑑賞

茶話会に参加された皆さん

人と人心と心のふれあい

南部町国際交流協会は1994年に発足し30周年を迎えました。これまでに中国、米国、韓国と、人と人とのふれあいを目的にした民間交流を数多く続けてきました。

発足前の1984年から2001年までは5回の訪中団を募集し、毎回50人以上の町民有志が中国各地で交流しました。1994年には米国オハイオ州立大学と交流を始め、2006年まで隔年で計7回、合計68人の大学生が町内48軒の民家でホームステイをしました。1996年からは、韓国・春川市にあるハンリム大学日本学科と交流を始めて現在に至っています。コロナ禍で中断するまでに、218人が来町し105軒の民家でホームステイしています。

国際交流を続けるには無理なく相互交流できることが大切で、中国、米国は遠距離と旅行代金に無理があり断念しましたが、韓国は近い隣国で無理無く相互交流ができると判断しました。国際交流は人と人心と心のふれあいです。これからも草の根交流を続けます。

記　野口　隆資

韓国研修旅行　春川の湖畔

会員対象国内研修旅行

鳥取砂丘へ大学生と会員の研修旅行

外国語スピーチコンテスト

韓国研修旅行　ソウル市内

お茶の作法学ぶ

地域の人とGG交流

大学生歓迎会

今年度は南部町国際交流協会発足30周年を迎えまして、お祝い申し上げます。

２０２５年は翰林大学日本学科と鳥取県南部町の交流30年となる意味深い年でもあります。１９９６年２月に第１回目のホームステイが始まって以来、新型コロナウイルスによる時期を除き、毎年、日本学科学生たちが南部町住民の方々の暖かいご配慮を受けながらホームステイに参加させていただき、ホストファミリーを家族のように感じ、今も連絡を取り合っている卒業生もいます。南部町高校生や国際交流協会の皆さんにも本校をご訪問いただきました。２０１９年２月に陶山清孝町長にもご訪問いただき、歓談したことが記憶に新しいです。このような草の根交流の成果は、塚田勝美会長を始め、国際交流協会の方々の真心と熱意があってこそ可能だったと思っております。日本学科長として心から感謝申し上げます。今後とも真の「善隣友好」の交流が続くことを望みます。

翰林大学日本学科長　南基鶴（ナム・キハク）

イ教授　　ナム教授

ハンリム大学日本学科ＯＢ
キム・ジンホさん
2019年2月23日撮影

1996年2月5日
ホストファミリーとの記念写真　（左本人）

韓国・ハンリム大学から
２００８年１月25日に贈呈された
感謝牌

1996年２月　第１回ホームステイ参加者
翰林大学日本学科卒業生　95学番(当時１年生)　金鎭鎬（キム・ジンホ）

あっという間に29年が過ぎました。当時大雪に覆われていた西伯町の風景をはじめ、米子市内、境港、松江城、出雲大社等、山陰の絶景が未だ記憶に新しいです。今も野口家とは連絡を取っていますが、1996年より今までホストファミリーとつながっているのは、縁をつなげていこうとする「お父さん」野口さんの強い意志のお陰だと思います。

プログラムの一つで、法勝寺中学校を訪問した際、生徒の皆さんに歌っていただいた合唱曲「さくら」がとても聴き心地よかったです。翰林大学の学生代表が何も準備できなかった我々ですが、御礼として「私たちの心をあげます」と言ってもらい、その場がとても暖かい温情で溢れていたことを覚えています。

鳥取県南部町と翰林大学日本学科の関係が30年も続いたのは、あの時から今までお互いを思う心があった結果だと思います。その心をずっと分かち合い、南部町と日本学科の交流が末永く続くことを祈ります。

30年を振り返って

以前は、10年ひと昔と言われてきました。では、30年は・・・？

昨年で南部町国際交流協会は30周年を迎えました。

協会のメイン事業としてホームステイ事業がありますが、そのきっかけづくりをしてくれたのが、南部町初代国際交流員、米国生まれのローリーでした。その後、韓国から来ました許敬七（ホー・キョンチル）に引き継がれ、韓国ハンリム大学とのホームステイが始まりました。

この度、ローリーが家族とともに年末に来日しました。今年８月より、アメリカに本校がある大学の日本校（京都）で大学教授として勤務することになったと嬉しい報告を受けました。

この長きにわたるホームステイ事業にたくさんの方々から、ご理解とご協力をいただき、今日の協会があります。今後の事業につきましてはこれからの時代を担っていかれる若い世代に、ご意見等をいただき新しいページが開かれることを切に願っております。

記　入口　幸子

ローリーさん　　入口さん

南部町国際交流協会年表

年	事業名
1994	国際交流協会発足
	第1回ｵﾊｲｵ州立大学ﾎｰﾑｽﾃｲ
	韓国訪問調査
1996	第1回翰林大学ﾎｰﾑｽﾃｲ
	第2回ｵﾊｲｵ州立大学ﾎｰﾑｽﾃｲ
	第2回翰林大学ﾎｰﾑｽﾃｲ
	第1回青少年韓国訪問団
	第1回西伯郡少年ｻｯｶｰ韓国訪問
1997	第1回外国語ｽﾋﾟｰﾁｺﾝﾃｽﾄ
	第3回翰林大学ﾎｰﾑｽﾃｲ
	第2回青少年韓国訪問団
	第2回西伯郡少年ｻｯｶｰ韓国訪問
	第2回外国語ｽﾋﾟｰﾁｺﾝﾃｽﾄ
	第4次日中友好訪問団（行先：重慶・武漢）
	第3回ｵﾊｲｵ州立大学ﾎｰﾑｽﾃｲ
	第4回翰林大学ﾎｰﾑｽﾃｲ
	第3回青少年韓国訪問団
	第3回西伯郡少年ｻｯｶｰ韓国訪問
1999	第3回外国語ｽﾋﾟｰﾁ大会
	第5回翰林大学ﾎｰﾑｽﾃｲ
	第4回西伯郡少年ｻｯｶｰ韓国訪問
2000	第4回外国語ｽﾋﾟｰﾁ大会
	第4回ｵﾊｲｵ州立大学ﾎｰﾑｽﾃｲ
	第6回翰林大学ﾎｰﾑｽﾃｲ
	第5回西伯郡少年ｻｯｶｰ韓国訪問
2001	第5回外国語ｽﾋﾟｰﾁ大会＆春節を祝う会
	第7回翰林大学ﾎｰﾑｽﾃｲ
	第5次日中友好訪問団（行先：大連・瀋陽）
2002	第6回外国語ｽﾋﾟｰﾁ発表会＆異文化交流会
	第5回ｵﾊｲｵ州立大学ﾎｰﾑｽﾃｲ
	第8回翰林大学ﾎｰﾑｽﾃｲ
	第6回西伯郡少年ｻｯｶｰ韓国訪問
2003	第7回外国語ｽﾋﾟｰﾁ大会＆異文化交流会
	第9回翰林大学ﾎｰﾑｽﾃｲはSARSにより中止
2004	第8回外国語ｽﾋﾟｰﾁ発表会＆異文化交流会

年	事業名
2004	第6回ｵﾊｲｵ州立大学ﾎｰﾑｽﾃｲ
	第10回翰林大学ﾎｰﾑｽﾃｲ
2005	第9回外国語ｽﾋﾟｰﾁ発表会＆異文化交流会
	第11回翰林大学ﾎｰﾑｽﾃｲ
2006	第7回ｵﾊｲｵ州立大学ﾎｰﾑｽﾃｲ
	第12回翰林大学ﾎｰﾑｽﾃｲ
	第10回外国語ｽﾋﾟｰﾁ発表会＆異文化交流会
2007	第13回翰林大学ﾎｰﾑｽﾃｲ
	第11回外国語ｽﾋﾟｰﾁ発表会＆多文化交流会
2008	南部町民の翼（訪韓）
	第14回翰林大学ﾎｰﾑｽﾃｲ
2009	第15回翰林大学ﾎｰﾑｽﾃｲ
2010	南部町国際交流協会発足15周年記念旅行
	第16回翰林大学ﾎｰﾑｽﾃｲ
2011	第17回翰林大学ﾎｰﾑｽﾃｲ
2012	交流の翼（訪韓）
	第18回翰林大学ﾎｰﾑｽﾃｲ
2013	第19回翰林大学ﾎｰﾑｽﾃｲ
2014	第20回翰林大学ﾎｰﾑｽﾃｲ
2015	韓国・ハンリム大学交流20周年記念旅行
2016	第21回翰林大学ﾎｰﾑｽﾃｲ
2016	第22回翰林大学ﾎｰﾑｽﾃｲ
2017	第23回翰林大学ﾎｰﾑｽﾃｲ
2018	第24回翰林大学ﾎｰﾑｽﾃｲ
2019	韓国・ハンリム大学訪問ツアー26名（ホストファミリー・学生の再会、大学との意見交換会）
	第25回翰林大学ﾎｰﾑｽﾃｲ
2020	新型コロナウイルスにより翰林大学ﾎｰﾑｽﾃｲ事業を休止（～2023年）
2021	
2022	翰林大学との俳句・川柳交流を開始
2023	シン・ナリさん、今田智子さんによる講演会を開催
	翰林大学との俳句・川柳交流
2024	中岡みずえさんによる講演会を開催
	翰林大学との俳句・川柳交流
	翰林大学と日程が合わず、ﾎｰﾑｽﾃｲ事業を中止
	南部町国際交流協会発足30周年茶話会を開催

2019年２月　町民有志ハンリム大学訪問

2019年７月　ハンリム大学学生歓迎会

編集後記

年に１回全戸配布をさせてもらっている南部町国際交流協会の広報誌「善隣友好」。今年度は、創立30周年を迎えた南部町国際交流協会の記念号として編集しました。

中国、米国、韓国との国際交流をしてきた当時の懐かしい写真や記録を捲っていたら、懐かしい人々との思い出がついこの間のように浮んできて、懐かしさがこみあげました。

国際交流は人と人心と心のふれあいです。30周年の思い出を語られた茶話会の記事や、懐かしい人との再会、韓国ハンリム大学からの投稿を拝読してその喜びを実感しました。

南部町国際交流協会は、これからも民間交流を基本に小さな草の根交流を続けます。

南部町国際交流協会
事務局長　野口　隆資

南部町国際交流協会役員

役職	氏名
会長	勝美
副会長	秀子
副会長	久男
事務局長	隆資
会計	幸子
理事	令子
理事	千隆
理事	由里
理事	真史
理事	智子
理事	忠明
顧問	日出夫
監事	俊作
監事	生田

役職	氏名
理事	塚田
理事	早田
理事	岡田
理事	野口
理事	入口
理事	山本
理事	板井
理事	淵
理事	西野
理事	大下
理事	生田
理事	遠藤
理事	青砥

※善隣友好…「隣の国など身近なところと仲よくし友情を深める」